

環境への影響に「不安」 名神湾岸連絡線



西宮市議会議員

かんの雅一

まさかず

「不安がある。騒音や振動、低周波音、景観への影響が大きい。事業で一番問題になるのは供用後の騒音と振動だ。周辺の住民生活に影響するのでは」と懸念を表明しました。

武田会長は環境影響評価書で示された計画交通量1日当たり1万9500台について「算定根拠がわからない。国は『連絡線の整備で周辺の道路の渋滞が緩和される』と言っているが、本当かどうかのデー

環境影響評価専門委の武田会長が表明
「市も事後監視調査のデータ検証を」

私は6月、市の諮問機関である環境影響評価専門委員会の武田義明会長(神戸大学名誉教授)に令和3年度に新規事業化された名神湾岸連絡線についてインタビューをしました。武田会長は連絡線の環境への影響について「不安がある」と指摘し、事業者が工事中や供用後に実施する事後監視調査のデータについて市も検証することを求めました。II2面に関連記事

環境影響評価専門委の武田会長が表明
「市も事後監視調査のデータ検証を」



かんのインタビューに答える武田義明会長II六湛寺町

答申では「最低限の環境基準等を満たすという視点でしか対策が示されていない」として国に環境保全の対策強化を求めました。市は答申内容をそのまま反映した意見書を兵庫県に提出しました。

インタビューの中で、武田会長は連絡線が環境に与える影響について「不安がある。騒音や振動、低周波音、景観への影響が大きい。事業で一番問題になるのは供用後の騒音と振動だ。周辺の住民生活に影響するのでは」と懸念を表明しました。

市議会は6月定例会で草加智清議員(会派・ぜんしん)を議長に、川村よしと議員(政新会)を副議長に選びました。任期は慣例により1年間。私は教育こども常任委員長に選任されました。引き続き、議会運営委員も務めます。「会派・ぜんしん」幹事長は私から澁谷祐介議員に交代しました。

かんの教育こども常任委員長に

武田会長は「環境影響評価はあくまで予測なので、その通りになるとは限らない」と述べ、環境影響評価書に記載された事後監視調査の重要性を指摘しました。評価書では大気汚染や騒音、低周波音などについて工事中や供用後に行う事後監視調査の計画が盛り込まれています。武田会長は事後監視調査のデータについて「県が検証するが、市も専門家の意見を聞いて独自に検証すべきだ」と述べました。

西宮市政報告

かんの新聞

第25号
年4回発行

ジャーナリストの視点で
調べる・伝える



元産経新聞記者
保守系無所属

サクラやヨット、今津灯台を表現

ごみの減量化などが目的



■「もやすごみ」(左)と「その他プラ」の指定袋のデザイン。

市は5月、令和4年4月に導入するごみ出し用の指定袋のデザインを決めました。生活系の「もやすごみ」用は白色の半透明の袋の表にピンク色で本市の市花であるサクラを表現。生活系の「その他プラ」(プラスチック製容器包装)用は透明の袋の表に青色で西宮の海を表現し、ヨットや今津灯台などを描きました。市は4月から約1か月、市民や市内在勤者を対象に令和4年4月導入の生活系指定袋のデザインを募集。応募があった145作品から選びました。

指定袋制度は市民がごみ出しをする際、市が規格やデザインなどを定めた袋の使用を義務づけるものです。ごみの減量化や分別排出の徹底、収集作業時の安全確保などが目的。事業系の可燃ごみ用についても同じ令和4年4月から、生活系の缶・ペットボトル用、その他不燃ごみ用は8年度から始めます。袋メーカーが市の指定に従って製造し、コンビニエンスストアやスーパーマーケットなどの小売店で販売します。今年12月から来年1月ごろに店頭に並ぶ見通し。価格にごみ処理手数料の上乗せはしません。今回の生活系指定袋のサイズは平袋が45リットル(大)と30リットル(中)、15リットル(小)の3種類。レジ袋タイプの取っ手付き袋も導入し、これは30リットル(中)、15リットル(小)、5リットル(極小)の3種類です。



いつでも電話を!

定期送付のご案内

新型コロナウイルスの感染拡大が私たちの暮らしを直撃しています。感染への不安や体調、仕事、経済的な問題、家庭の問題をはじめ、色々な事情でつらい思いをされている方が多いと思います。悩みを抱え込まないでください。いつでもいいので私に電話してください。一緒に考えましょう。私の連絡先はこのページの下に記載しています。メールやFAXでも結構です。

西宮市政報告「かんの新聞」は年間4回、発行し、南甲子園地区(市立南甲子園小学校の校区など)と周辺地域を中心に各戸配布し、西宮市内に配達する産経新聞朝刊に折り込みとして入れます。それ以外の方、ビラ配布禁止の集合住宅にお住まいの方、確実に入手したい方には定期的に送付します。下記●印の必要事項を記載いただき、お申し込みください。市政へのご意見、ご要望や「かんの新聞」のご感想も書きいただければ、うれしいです。「かんの新聞」のバックナンバーをご希望の方もご連絡ください。

●「定期送付希望」●郵便番号●ご住所●お名前●ご連絡先電話番号●メールアドレス

はがき宛先 〒663-8153 西宮市南甲子園3丁目4-51-101 メール・FAXでのお申し込みは 本紙最下段に記載の宛先まで

言葉の解説

西宮市健康ポイント事業とは何?

市が今年10月から70歳以上の市民を対象に実施する高齢者の健康増進や介護予防、健康寿命の延伸を目的とした事業です。活動量計かスマートフォンのアプリを使用して計測した歩数や各種イベントへの参加などに応じてポイントが付与され、貯めたポイントは商品券などに交換できます。定員は活動量計コースが8千人、アプリコースが2千人です。

問い合わせ先 西宮市健康ポイント事業運営事務局
0120-539-149



本名:菅野 雅一(かんの・まさかず)

昭和33年(1958年)、神戸市生まれ。上智大学文学部新聞学科卒業。昭和60年に産経新聞社に入社。平成27年1月に退社し、同年4月の市議選に初当選。31年4月の市議選で再選。保守系で政党無所属。「会派・ぜんしん」メンバー。南甲子園自治会副会長。NPO法人海浜の自然環境を守る会副理事長。社会福祉法人真砂ちどり保育園理事長。防災士。

次号は令和3年11月の発行予定です

かんの雅一 事務所

〒663-8153 西宮市南甲子園3丁目4-51-101
TEL:090-1895-1488 FAX:0798-40-9530
《MAIL》info@kannomasakazu.com

●詳しい政策はホームページへ www.kannomasakazu.com

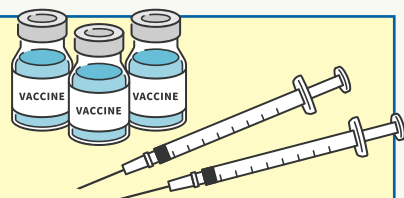
かんの雅一

検索

かんの
コラム
25

変更を重ねるワクチン接種体制

市は開始時の混乱を反省／供給不足で目標を下方修正



市の新型コロナウイルスのワクチン接種体制は、5月の開始時に市の想定以上の予約申し込みが殺到したことや、その後のワクチンの供給不足などで変更を重ねています。市は開始時に市民や医療機関の混乱を招いたことを反省し、国や兵庫県と連携しながら、できる限り早く希望者全員の接種を完了させたいとしています。

市は当初、接種体制について日々の診察で個人の体調を知っている地域の医療機関での個別接種を中心に据えたうえで、市立中央病院など5か所で集団接種を行うことにしました。

市は5月10日発行の市政ニュースで65歳以上の高齢者を対象としたワクチン接種体制を発表し、集団接種会場や個別接種を実施する医療機関の一覧表などを掲載しました。集団接種のためのコールセンターには30人の人員を配置しました。

予約開始の5月12日から、電話がコールセンターや医療機関に殺到しました。医療機関では通常の診察に支障が出る事態が発生。ネット予約は開始後わずか8分間で供給枠が埋まりました。

市には「電話を何回かけても通じない」「医療機関から『かかりつけの患者しか受け付けられない』と断られた」「他市より接種体制が見劣りする」などの市民の苦情が殺到しました。

市は5月25日発行の市政ニュースで「集団接種および個別接種における本市の体制や広報に不十分な

点があり、市民の皆様や医療機関の方々にご迷惑をおかけしましたこと、心よりお詫び申し上げます」との石井登志郎市長名のコメントを掲載しました。そのうえで、集団接種会場を拡充し、コールセンターの人員も50人に増やしました。

その後、国の9月末までのワクチン供給量が市の要望より30万回分少ない約50万回分になることが判明。市は7月、市立浜甲子園体育館などの集団接種会場を前倒しで終了する方針を発表しました。8月からは7月末に開設した「にしきた接種会場」(深津町)などで集団接種を実施しています。

市は接種率目標について10月末までに希望者の80%以上とじていましたが、11月末までに約70%と下方修正しました。市は供給が見込まれる約50万回分のうち40万回分を医療機関などでの個別接種に振り分ける方針。



■にしきた接種会場＝深津町

待機児童は182人 —3歳は解消— 申込者数が3千人台に



市は5月、4月1日時点の保育所等待機児童数が182人で昨年に比べ163人減少したと発表しました。希望する保育所に入れなかった利用保留児童数は昨年に比べ98人増えて1034人に達しました。年齢別の待機児童数は1歳が昨年から30人減って128人、2歳が31人減って54人。3歳の待機児童数は昨年、102人でしたが、今年は解消され、0歳と4歳、5歳の待機児童は昨年同様、いませんでした。今年の保育所の入所申込者数は昨年から317人増えて3271人と初めて3千人台に達しました。市は今後も保育需要が高まり、申込者数が増えると考えています。

市は令和3年度に3園の保育所などの新設と国家戦略特区制度を活用した小規模保育事業の開設により約400人分の受け入れ枠を拡大しました。4年度には8園の保育所などの新設で、約600人分の受け入れ枠を新たに確保するとしています。

「計画交通量の算定根拠がわからない。国は『連絡線の整備で周辺の道路の渋滞が緩和される』と言っているが、本当かどうかのデータの提示もない。事業の必要性の根幹の部分があいまいだ」

「評価書では、微小粒子状物質『PM2.5』について『予測方法等が確立されていない』として言及を避けている。これは健康被害、特にがんのリス

PM2.5への対応を

―連絡線の環境影響評価書についてのお考えは。―

「不安がある。騒音や振動、低周波音、景観への影響が大きい。事業で一番問題になるのは供用後の騒音と振動だ。騒音については集合住宅の上層階への影響が心配だ。音は上へと逃げていくので、そこをうまく抑えられればいいのだが…。大型車の通行による振動も気になる。それに付随して出てくる低周波音も心配だ」

―国は名神湾岸連絡線について令和3年度予算に1億円の事業費を計上して新規事業化しました。今後3年程度かけて調査・測量・設計を行う予定です。この事業に不安な点はありませんか。―

住民が納得する形で進めよ

―国やこれから決定される事業者への要望は。―

「住民が納得する形で進めてほしい。この地域は今でも国道43号と阪神高速3号神戸線が通っており、良い環境ではない。これ以上、環境が悪化すると、住民にとってしんどい」

「環境影響評価はあくまで予測なので、その通りになるとは限らない。不測の事態や予測を大きく上回る事態が発生する可能性がある。評価書では、通行車両の速度を時速60キロで計算しており、それを上回る速度で走った場合の騒音や振動などの影響が計算されていない。特に、橋げた



■武田義明会長(左)とかんの市議会議員(右)の西宮市議会応接室

のジョイント部分はガタンガタンと大きな音がする。国は『規制速度が決まっているから』『規制速度を守らせます』などと言っているだけだ」

異常時には地元へすぐ連絡を

―評価書では、大気汚染や騒音、低周波音などについて工事中や供用後に行う事後監視調査の計画が盛り込まれています。―

「工事中と供用後の環境への影響をしっかりと監視しなければいけない。事業者がそのデータを県に報告することになるが、市でも検証して県に意見を言うような形になればと思う」

―市のどこで事後監視調査のデータを検証するのですか。―

「環境影響評価専門委員会のメンバーのような専門家ならできる。ただ、データを検証したうえで、県に意見を提出する仕組みを整備する必要がある。事業者は県に毎年1回、事後監視調査結果報告書を提出することになるが、異常があった時はすぐに地元知らせて、対応できる体制づくりが必要だ。国と事業者、県の間だけのやりとりで終わらせてはいけない」

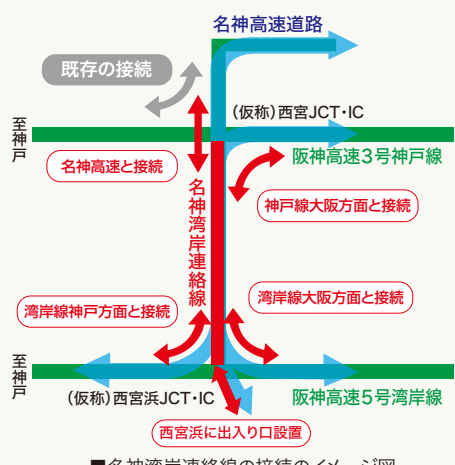
専門家の積極活用を

―事業者が今後、事業の各段階で市民に対する説明会を開くことになると思いますが、専門知識のない市民には説明内容を検証することができません。市は事業者の説明を専門的な知見によって検証して公表する仕組みをつくるべきでは。―

「説明会には市の職員も出席して疑問点を説明する必要がある。市の職員がわからなければ、専門家に聞いてほしい。私たちは積極的に対応する姿勢をもっている」

◆名神湾岸連絡線

名神高速道路と阪神高速5号湾岸線をつなぐために計画されている延長約2.7キロの自動車専用道路。片側1車線の計2車線道路で、名神高速、阪神高速3号神戸線の大阪方面、湾岸線の大阪、神戸の両方面の4か所で接続し、西宮浜に出入り口を設置します。全体事業費は約1050億円。



■名神湾岸連絡線の接続のイメージ図

◆環境影響評価専門委員会

市の諮問機関で、国又は兵庫県が定める環境影響評価制度に基づき、県知事から市長に意見を求められた場合に、公害の防止及び自然環境の保全に関し、専門的及び技術的な事項を調査・審議します。学識経験者10人で構成します。